

これまでの勉強会（9/2, 9, 16, 30）における意見のポイント

※ 事務局の文責により作成

- 経済財政諮問会議における指摘を待つことなく、自律的・能動的に統計の改善を図る仕組みがあるべき。
- 研究者や政策立案者から恒常的に問題点を指摘してもらい、それを受けるような窓口が必要。
- 統計データの提供を迅速に行うべき。
- 的確な判断のためには、民間統計も利用すべき。
- 統計職員について、作業の外注を進めた上で、エキスパートの部分を増やすべき。
- 統計の作り方、バイアス、特性についてのドキュメンテーションが極めて不足。
- 産業の産出物をどうやって捉えているか、デフレーターが的確に捉えられているかということに関して議論が必要。
- 行政記録情報の活用について、活用できていない例を取り上げて、これが活用できたら何ができるようになるのか、議論してはどうか。
- オーダーメイド集計について、一人がオーダーすれば費用も高くなるだろうが、同じ統計が必要な人が多く集まれば、クラウドファンディングのように個人個人が負担すべき費用は安くなる。
- 各省に、自省内の統計を見るだけではなく、統計を政策立案に生かしているかを見る専門家を置くこととしてはどうか。
- 国民経済計算の推計手法についての公表を一層充実させるべき。
- デフレーター作成手法の情報開示を拡充すべき。
- 93SNA、08SNAへの対応について、国際的に見て遜色ないということであれば、それが明らかになるようにすべき。